



## 第5学年 外国語科学習指導案

令和4年1月25日（火）

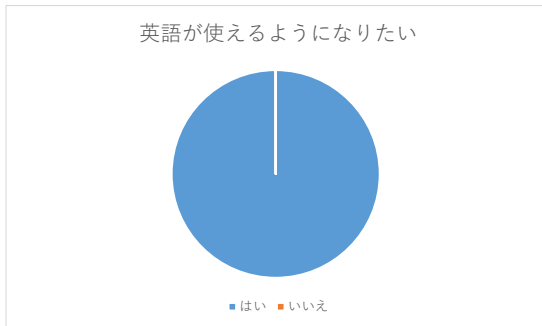
- 1 **単元名** 「Unit3 おすすめ(場所・こと・もの)とその理由を伝える」  
『Crown Jr⑤ Lesson6, “It is in the box. 探し物は、どこ？”』

### 2 単元について

「Lesson6 “It is in the box.”」では、児童がこれまでにインプットしてきた様々な名詞や前置詞、語順を使い、位置や場所を描写する。前置詞は名詞の前において、位置、方向、手段、場所などを表すときに使うが、個々では位置を表す4つの前置詞、on, in, under, byを扱う。前置詞で位置を描写する際には、名詞の前に前置詞を置き、箱の中なら in the box. 箱のそばなら by the box. となる。しかしこの語順は日本語とは逆になるため日本人英語学習者が混乱しやすい点にもなっている。そのため、本単元では実際に体を動かしながらその状態を聴覚・視覚で何度もインプットさせながら、日本語を介することなく少しずつ定着させていくことを目指している。また、前置詞を単体で理解するのではなく、in the box. under the box.のようにチャンクでリスニングでもスピーキングでも捉えられるように、正しい音声を十分にインプットさせたのち、それらを使ってコミュニケーションが取れるようになることを目指している。似ている活動を何度も繰り返させることで、正しい英語表現(文法や語彙の使用)、語順、音声(発音、強勢、イントネーション)、communication strategy(相槌、繰り返し、確認等)、非言語コミュニケーションスキル(ジェスチャーや、表情、アイコンタクト)を身につけると同時に Speaking skill の3構成である正確性、複雑性、流暢性の向上も目指している。

### 3 児童の実態について

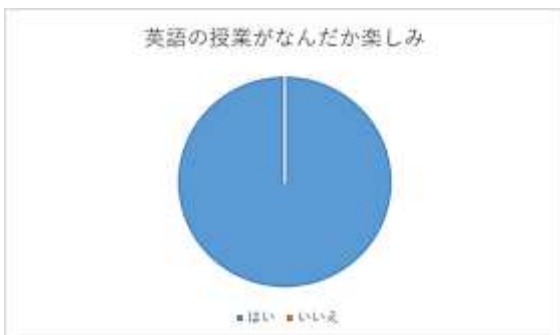
児童は、これまでのほぼオール English での外国語学習の経験から、Hello. How are you? 等の基本的な挨拶はもちろん、日常的な Class room English や small talk の聞き取り、英語での指示や説明にも慣れておりほぼ正確に推測し、理解できている。また、Yes. Good. Okay. One more please. No more. Done. Not, yet. Here you are. Got it. I'm ready. などの日常的な受け答えも身につけており、自然に返答することができる。外国語学習への取り組みは総じて非常に前向きで、活発に発言をしたりペアで活動したりして、英語を教科として学ぶというより英語をコミュニケーションツールとして使い、ペアワークを通して友達の新たな一面を知れることも楽しんでいる。1学期末に実施した英語学習についてのアンケート結果(1学期中全ての授業実施後)は以下のとおりである。



はい 100%  
理由 ※複数回答有り

- ・かっこいい
- ・いろいろな国の人と交流したい
- ・外国に行って話したい
- ・色々な国の人と友達になりたい
- ・将来の可能性が広がる
- ・困っている外国人を助きたい

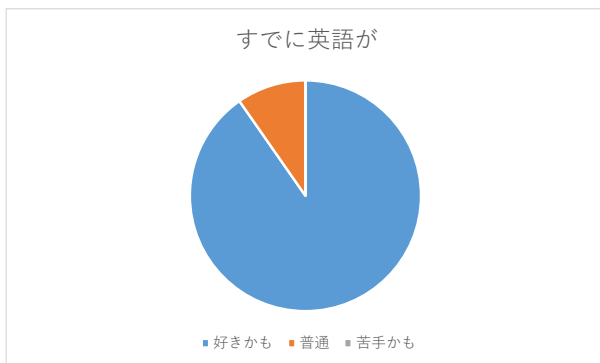
100%の児童が「英語が使えるようになりたい」という明確な気持ちを持っている。その主な理由としては、英語をコミュニケーションツールとして使うことで、世界の様々な人と交流したい、友達を作ってみたい、という「英語で世界とつながってみたい」という言語に対する本質 (intrinsic motivation) の視点を感じることができる。



はい 100%  
理由 ※複数回答有り

- ・どんどん話せるようになるから
- ・ペアワークが楽しい
- ・毎回今日は何をするのかワクワクする
- ・友達と仲良くなれる
- ・達成感がある、ほめてくれる
- ・授業が分かりやすい
- ・先生たちともっと英語で話したい

100%の児童が「英語の授業がなんだか楽しみ」と答えており、その主な理由として自分で上達を実感できることが挙げられている。昨年度から英語ならではのリズムや発声 (子音の発声の仕方や音声のメカニズムなど) を学んでいるため、多くの児童が英語らしい音声の良さとその価値に気が付き、真似できるようになっている。またタブレットを使って練習前・練習後の動画を撮影、比較することで自身の Speaking 力 (正確性・流暢性・複雑性) の上達を実感できたり、個別の speaking の良さや改善点を言及したフィードバックをもらって練習したりできることが「英語を学んでいるな」「できるようになっているな」という実感と自信につながっているのだと考えられる。また、紙や輪ゴム等を効果的に使うことで、単調になりがちな発音練習も面白みをもって練習ができ、成果を感じやすいところも「英語の授業が楽しみ」と思える要因になっていると思われる。



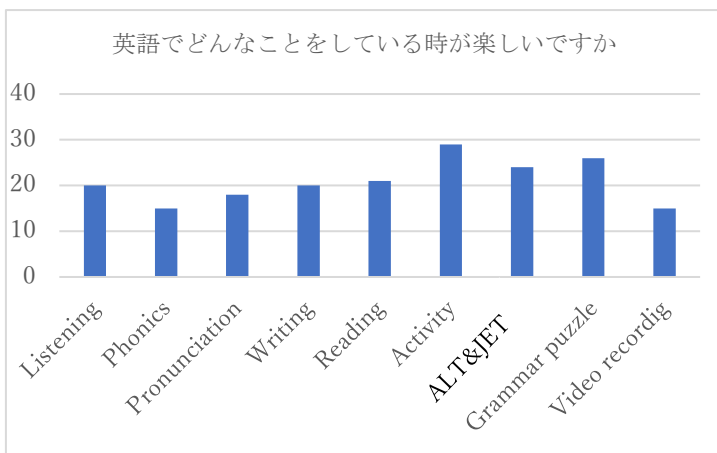
好きかも 91%  
理由 ※複数回答有り

- ・英語が分かる
- ・話せるようになる
- ・どんどんできるようになる
- ・世界中の人とコミュニケーションが取れる
- ・先生が分かりやすい
- ・雰囲気楽しい

普通 9%  
理由 ※複数回答有り

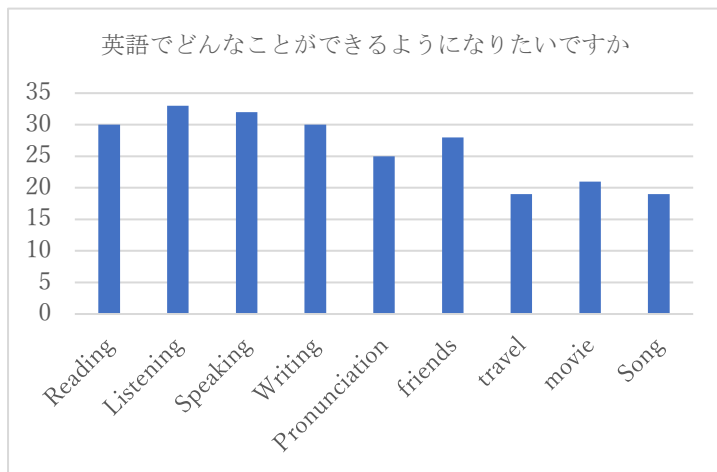
- ・英語ができるようになった
- ・友達と一緒にやるのが楽しい

「好き」と答えた児童は、自分が「できる」というこれまでの学習経験からの成果と実感、自信から「英語が好き」と答えている様子が確認できる。また「普通」と答えた児童も、自分自身の成長を実感していることが分かる。実際にオンラインで外国の児童と繋がって英会話をしてみたいという思いを持つ児童も多いことから、これまで練習してきた自分の英語力に一定の自信を持っていることが分かる。6年生になったら、オーストラリアの小学生とオンライン授業を行うことを伝えており、それを楽しみにしながらも単に英語を話すだけではなく、発音や、強弱、ジェスチャー、スピードなど、相手をイメージした **communication** の重要性を意識して学習を深めている。英語という言葉が教科の1つという認識を超えて、実際に世界の人とつながれるコミュニケーションツールであることを実感し、①「もっと話せるようになりたい」「もっと相手のことを知りたい」「もっと仲良くなりたい」という強い内的動機 (**intrinsic motivation**) と②「できた」という実感・自信が意欲的で望ましい外国語学習環境 (**High motivation, High confidence, Low anxiety**) を構築し、児童の言語習得の活性化を促している。



アンケートに答えたほぼ全員の児童が、**Activity** が楽しいと答えていることから、**Listening** や **Writing**, **Pronunciation** などの言語単体のスキルよりも、それらを組み合わせてコミュニケーションをとる (**Listening, Pronunciation, Speaking, Grammar** の複合) ということに面白みを感じていることが分かる。また、**Grammar puzzle** が好きな児童も多く、自分の言いたいことを

試行錯誤しながら 1 から自分の力で組み立てるといった活動を楽しんでいる。このような複合スキルは単体のスキルより難易度は高いがその分「自分だけの文が作れた」、「自分の力だけでできた」その結果「コミュニケーションをとれた」という達成感や成就感が新たな学びへの原動力に繋がっているのだと考えられる。



英語への興味が総じて高いこともあり、言語4技能を身につけることに意欲がある。**Friends** の項目が高いことも鑑みると、身につけた英語力を活用して実際に交流をしたり、世界中に友達を作ってみたりしたいという、言語習得の先の無限に広がる可能性を見据えている児童が多い。これは児童が英語をただの教科の1つとして捉えず、世界と繋がるコミュニケーションツールとしての大きな可能性に興味を示していると言える。

## 4 指導について

第2言語習得理論の観点から、外国語の授業では言語習得が促されやすい条件とされている①モチベーションが高い、②自信が高い、③不安が低いという3条件を最大限に発揮できる環境づくりを何よりも大切にしている。なぜなら、児童が、**relaxing, safe, supportive**だとその場を認識することができれば、自然にのびのびと発話をするようになり、英語を話す場数が増え、英語コミュニケーション能力の大きな向上に繋がるからである。例えば、児童が英語を話す際には周りの児童も同じタイミングで話している場をあえて意図的に設け、単独で英語を発声したり無理に目立たせたりすることのないように配慮し、**language anxiety**（言語への不安感や他者の評価に対する不安感）の軽減を図り、児童がリラックスした雰囲気の中で英語が話せるように工夫している。**Speaking** 練習をしている際はそれぞれのペアを回り、個々に大いにほめると同時に、良い発話や工夫があった際には全体で共有、称賛し、モチベーションと自信が高まるような指導をしている。一方で、訂正する際には、個別に肯定的な言葉を用いて、児童自身が自分で気が付けるように配慮している。

また、第2言語習得理論における「大量のインプットと少量のアウトプット」の理論を実際の授業に落とし込み、**EFL 環境（※）**であってもホームワークを通してなるべく授業外でも英語に触れる機会を増やすこと、実際に英語をコミュニケーションの道具として使う場を設けることで、児童が楽しく、効率的かつ効果的に英語を身につけられる指導を設定している。そのため学習は①ホームワーク（主にインプット：復習の一環として、新しい表現や語句の音読、発音練習、次のトピックの **Brainstorming**、校内の教員にインタビューなど）と、②対面学習（アウトプット：復習、ホームワークの成果、ペアやクラスでの **Speaking** 練習、教師からのフィードバック）を併用して外国語の学習を進めている。

対面学習ではスピーキングのコアとなる①**Conceptualization**（話す話題や背景知識があること）②**Formulation**（それを構成する文法や語彙があること）③**Articulation**（それらを正しく発音できること）をアクティビティの中に段階的に配置し、少しずつ負荷を上げ、無理なくスキルを高められるようにしている。主にアクティビティは以下の3つの段階から成っている。まず、①**controlled practice**（音読や繰り返し：インプットした表現や語句を定着させる）では、決まった話題、単語、発話を教師のあとについて発話するような負荷が一番低いものから始め、②**guided practice**（**Information gap game** 等のヒントを与えながらのペアワーク）に移る。これは、話題は提供されているが、ある程度自分で文を構成、発話する必要があるとともに、ペアで情報共有をすることで1つの課題が達成できることから、発話する必然性も同時に与えることもできる。そして最後の ③**free practice**（プレゼンテーション、スピーチ等、話題作り、構成、発話のすべてをゼロから組み立てる活動）を経て、効果的かつ着実な言語習得を促している。ターゲット表現は同じでありながらも達成可能な別の課題を与えることで少しずつ難易度を上げ、児童が自ら思考し、間違えながら修正して、何度も練習することで正しく発話できるようになる活動を多く取り入れている。

本単元は、最終的に「おすすめの場所を紹介する」というアウトプット単元である。児童には6年生になったら実際にオーストラリアの児童とオンライン通話をすることを伝えてあり、「どうすればより伝わるのか」、「どうすればより興味を持ってもらえるのか」ということを、具体的に相手をイメージしながら学習を進めてきた。その中で、『文法や語彙』を扱うと同時に、『伝わる・使えるコミュニケーションとしての英語』を習得させるために、音声指導に重点を置いて指導をしている。特に、日本人の苦手とする様々な子音や母音の発音の仕方を画像や実際にやってみせることで明示的に教えるとともに、身近にある道具(紙、割り箸、鏡)を使って、「見えない音」を「見える化」して、児童が実感を伴って学べるように指導している。次に、英語特有のリズム(強勢、短縮、同化、連結、脱落、弱形、ラ行化)を輪ゴムや体を使って練習し、体得させることで、相手にも伝わりやすいだけでなく、自分のリスニング能力の向上にも効果が認められているアプローチを用いて指導している。授業内でのインプット活動では各単語の意味理解についても多様なイラストや写真を用いることなるべく日本語を介さず、英語→イメージ(英語脳)として捉えられるように工夫している。

さらに、「流暢性」の向上も「伝わる英語」には欠かせないことから、前述した3段階のスピーキングトレーニングと、**Fluency development** というテクニックを用いて、児童がターゲット表現を異なる場面で何度も練習できるようなアクティビティを設定している。繰り返し練習することで、①正しい英語表現が身につく②音声面が鍛えられ③流暢性・正確性・複雑性が向上し、成果も感じやすいことから児童のやる気と自信が高まり、より「伝わる英語」に近づけることができる。

※EFLとは、English as a Foreign Language(外国語としての英語)の略であり、EFL環境とは英語を母語としていない人が普段の生活で英語を使わない環境で英語を学ぶことを意味している。日本人は英語を母語としておらず、普段の暮らしのなかで、英語を使わずに生活を営んでいる。このようなEFL環境では、常時意識しなくても英語が流れている環境とは大きく異なり、意識しなければ英語に触れることができない。この圧倒的なインプット量と英語に触れる機会の少なさから、EFL環境下での言語学習は、学習者自らが意識して自ら英語に触れる環境を作らなければ、言語習得の結果を出しにくい環境となっている。

## 5 研究主題との関連

研究主題「心豊かに生き生きと活動する児童の育成」

～SDGsの視点を生かした授業展開の工夫～

本校では、生活科・総合的な学習の時間を中心とした全教科でSDGsの視点を生かした研究を進めている。本単元では、本時のめあてである「効果的な交流」を達成するために、ペ

ア活動の中で試行錯誤を重ねながら実際にコミュニケーションをすることで、仲間とともに目標に近づいていく活動になるため、「⑰パートナーシップで目標を達成しよう」に関連付けて指導する。日本語だったら何気なくできている相槌でも、英語になると無言になってしまったり、無意識に日本語になってしまったりするところをお互いに意識することで、少しずつ英語での発話の種類ややり取りの回数が増えていく過程を実感できるようにする。仲間と学ぶことで、一人で学ぶ時よりも、刺激や面白みがあったり、学びの質が上がったり、学びが定着しやすかったりするなど、ペアや集団で学ぶ価値も感じとらせたい。

## 6 単元の評価規準

(本単元における「読むこと」及び「話すこと[発表]」については、目標に向けての指導は行うが、本単元内で記録に残る評価は行わない)

	聞くこと(聞)	話すこと [やりとり](や)	書くこと(書)
知識・技能	<p>&lt;知識&gt;</p> <p>①ものの位置を表す前置詞 (on, in, under, by)の意味や働きを理解している。</p> <p>&lt;技能&gt;</p> <p>②ものの位置を表す前置詞 (on, in, under, by)を理解して絵に表すことができる。</p>	<p>&lt;知識&gt;</p> <p>①ものの位置を表す前置詞 (on, in, under, by)の意味を理解している。</p> <p>&lt;技能&gt;</p> <p>②ものの位置を表す前置詞 (on, in, under, by)を理解して文章を構成し、伝えることができる。</p>	<p>&lt;技能&gt;</p> <p>①絵に合う前置詞を選んで形に気を付けて書く技能を身につけている。</p>
思考・判断・表現	<p>①必要に応じて話し手に聞き返したり、反応をしたりしている。</p>	<p>①聞き手によりよく伝わるように、必要に応じて繰り返したり強勢を置いたりするなど工夫して伝えている。</p>	
主体的に学習に取り組む態度	<p>①話し手に反応を返しながらコミュニケーションをとっている。</p>	<p>①聞き手の様子を観察しながらコミュニケーションをとっている。</p>	

## 7 単元の目標

- ・ものの位置を表す前置詞(on, in, under, by)の意味や働きを理解し、絵に合わせて伝えた

り、聞いたものを絵に示したりすることができる。

〈知識及び技能〉

- ・相手を意識しながら必要に応じて、聞き返したり、繰り返したり、強勢を置いたりするなど適切な Communication strategy を使って双方向にコミュニケーションをとっている。

〈思考力・判断力・表現力等〉

- ・お互いの理解度を配慮しながら、物の場所について伝え合おうとする。

〈学びに向かう力、人間性等〉

## 8 言語材料（新出表現、語彙）

主な表現	主な新出語彙
A dog is on the sofa. A cat is in the box. A hamburger is on the table. A shopping bag is by the box. そのほか、中学年から本時までに学習した表現	【Prepositions】 on, in, under, by 等 【Animals】 dog, cat, rabbit, fox, 等 【food】 hamburger, pizza, juice, sandwich, hotdog 等 【others】 sofa, table, shopping bag, water bottle 等 その他、中学年から本時までに学習した語句。

コミュニケーションの目的・場面・状況	それぞれの児童が、適切に前置詞を使って、意図している物の場所を相手に正しく伝えられる、聞き取り理解することができる。 (ペアワーク： Guided practice & Free practice インフォメーションギャップゲーム)
目指す発話例	It is on the sofa. It is in the box. It is by the box. It is under the box. Where is Kurobe Dam? It is in Toyama. You can....

## 9 単元計画（6時間）

「さがしものは、どこ？」『Crown Jr⑤ Lesson6, It is in the box.』

時	目標(◆)と主な活動 (【 】, ○) ※【 〓】 = 紙面化されている活動	◎評価〈方法〉
1	◆物がどこにあるかを答える語(in, on, under, by)や表現に気づき、理解する。 ○Small Talk 話題： Where is my textbook? ALT と JET の会話を聞く。 【Sound chant】 /ks/, /r/, /a/ の音を持つ語を聞いてリズムに合わせて発音練習をする。 【Pre-Panorama】 イラストについてやり取りをする。 <表現例>	◎on, in, under, by を聞いてどこの場所を表しているのか理解できる。 (WS) 聞<知識>① 聞<技能>②

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• What animals can you see ?</li> <li>• Where is a rabbit? Where is a bird? Where is a cat?</li> <li>• Good. It's on the piano. Yes, it's in the box. Nice, it's in the basket.</li> </ul> <p>※Panorama に出てくる前置詞をジェスチャーとともに使って慣れさせる。</p> <p>Panorama Talk を聞く。</p> <p>【Pair discussion】覚えている範囲で内容の確認→もう一度聞く。</p> <p>【Spotlight】だれが話しているのかを推測し、概要をとらえる (Pair work)。</p> <p>【Chant】 on, in, under, by チャンツを体を動かしながら歌う。</p> <p>【Controlled practice】 Today's target を練習する。( ) is on the desk.</p> <p>【Input practice】ALT と JET の指示通りに物を移動させる。(on, in, under, by)</p> <p>【Listening practice】 ALT と JET が言ったものをイラストの中に書いていく。</p>	
2	<p>◆物がどこにあるか答える語(on, in, under, by)を使って物の場所を相手に伝えることに慣れる。</p> <p>○Small Talk 話題 : Where is my eraser? ALT と JET の会話を聞く。</p> <p>【Chant】 on, in, under, by チャンツを体を動かしながら歌う。</p> <p>【Review①】 前回の Today's target を復習する。( ) is on the desk.(in on)</p> <p>【Review②】 ALT と JET が言ったものをイラストの中に書いていく。</p> <p>【Review③】 ペアで guided information gap game をする(in, on)</p> <p>【Pre-Panorama】 イラストについてやり取りをする。</p> <p>&lt;表現例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• What animals can you see ?</li> <li>• Where is a bear? Where is a snake? Where is a frog?</li> <li>• Good. It's under the chair. Yes, it's in the box. Nice, it's in the basket.</li> </ul> <p>※Panorama に出てくる前置詞をジェスチャーとともに使って慣れさせる。</p> <p>Panorama Talk を聞く。</p> <p>【Pair discussion】覚えている範囲で内容の確認→もう一度聞く。</p> <p>【Spotlight】だれが話しているのかを推測し、概要をとらえる (Pair work)。</p> <p>【Controlled practice】 Today's target を練習する。( ) is under the desk.</p>	<p>◎on, in, under, by を聞いたり使ったりして場所を表すことができる。(WS、タブレット、行動観察)</p> <p>聞&lt;技能&gt;②</p> <p>や&lt;知識&gt;①</p>



	<p><b>【Input practice】</b>ALT と JET の指示通りに物を移動させる。(on, in, under, by)</p> <p><b>【Listening practice】</b> ALT と JET が言ったものをイラストの中に書いていく。(on, in, under, by)</p> <p><b>【Guided practice】</b> ペアで Guided information gap game を行う(on, in, under, by)。示された部屋の様子を相手に on, in, under, by を使って説明する。</p>	
3	<p>◆物がどこにあるかを答える語(in, on, under, by)を理解して使う。</p> <p>○Small Talk 話題：Where is my pen? ALT と JET の会話を聞く。</p> <p><b>【Chant】</b> on, in, under, by チャンツを体を動かしながら歌う。</p> <p><b>【Review】</b> ALT と JET の指示通りに物を移動させる。(on, in, under, by)</p> <p><b>【Pre-Panorama】</b> イラストについてやり取りをする。</p> <p>&lt;表現例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• What animals can you see ?</li> <li>• Where is a bear? Where is a snake? Where is a frog?</li> <li>• Good. It's under the chair. Yes, it's in the box. Nice, it's in the basket.</li> </ul> <p>※Panorama に出てくる前置詞をジェスチャーとともに使って慣れさせる。</p> <p>Panorama Talk を聞く。</p> <p><b>【Pair discussion】</b>覚えている範囲で内容の確認→もう一度聞く。</p> <p><b>【Spotlight②】</b> だれが話しているのかを推測し、概要をとらえる (Pair work)。</p> <p><b>【Controlled practice】</b> Today's target を練習する。( )is under the desk.</p> <p><b>【Listening practice】</b> ALT と JET が言ったものをイラストの中に書いていく。(on, in, under, by)</p> <p><b>【Guided practice】</b> ペアで Guided information gap game を行う(on, in, under, by)。示された部屋の様子を相手に on, in, under, by を使って説明する。</p>	<p>◎on, in, under, by を使って物の場所を説明できている (行動観察、WS、タブレット)</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">聞</span>&lt;技能&gt;②  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">聞</span>&lt;態度&gt;①  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">や</span>&lt;技能&gt;②</p>
4 本 時	<p>◆物がどこにあるかを答える語(in, on, under, by)を理解して、相手とコミュニケーションをとりながら伝える。</p> <p>○Small Talk 話題：Where is my pen? ALT と JET の会話を聞く。</p> <p><b>【Review】</b> ALT と JET の指示通りに物を移動させる。(on, in, under, by)</p>	<p>◎相手とコミュニケーションをとりながら on, in, under, by を使って説明できている。</p>

	<p>【Chant】 on, in, under, by チャンツを体を動かしながら歌う。</p> <p>【Pre-Panorama】 イラストについてやり取りをする。</p> <p>&lt;表現例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Where are balls? Where are cookies? Where are coins?</li> <li>・ Good. It's under the chair. Yes, it's in the box. Nice, it's in the basket.</li> </ul> <p>※Panorama に出てくる前置詞をジェスチャーとともに使って慣れさせる。</p> <p>Panorama Talk を聞く。</p> <p>【Pair discussion】覚えている範囲で内容の確認→もう一度聞く。</p> <p>【Controlled practice】 Today's target を練習する。( ) is under the desk.</p> <p>【Watch and think】 ALT と JET のやりとりを聞いて、今日のねらいを把握する。</p> <p>【Listening practice】 ALT と JET が言ったものをイラストの中に書いていく。(on, in, under, by) Communication strategy</p> <p>【Free practice】 自分で部屋の様子をデザインし、それをペアに説明する。</p> <p>【Writing】 ものの場所を表す語を理解して書いている。</p>	<p>(行動観察、WS、タブレット)</p> <p>聞 &lt;思・判・表&gt;②</p> <p>や &lt;思・判・表&gt;①</p> <p>や &lt;態度&gt;②</p>
5	<p>◆ある場所がどこにあるか尋ねたり答えたりする表現を理解している。</p> <p>○Small Talk 話題： Where is Uluru? ALT と JET の会話を聞く。</p> <p>【Chant】 on, in, under, by チャンツを体を動かしながら歌う。</p> <p>【Review①】 ALT と JET の指示通りに物を移動させる。(on, in, under, by)</p> <p>【Review②】 自分で部屋の様子をデザインし、それをペアに説明する。</p> <p>【Pre-Panorama】 イラストについてやり取りをする。</p> <p>&lt;表現例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ What animals can you see?</li> <li>・ Where is a bear? Where is a snake? Where is a frog?</li> <li>・ Good. It's under the chair. Yes, it's in the box. Nice, it's in the basket.</li> </ul> <p>※Panorama に出てくる前置詞をジェスチャーとともに使って慣れさせる。</p> <p>Panorama Talk を聞く。</p> <p>【Pair discussion】覚えている範囲で内容の確認→もう一度聞く。</p> <p>【Spotlight③】 だれが話しているのかを推測し、概要をとらえる (Pair work)</p> <p>【Touching game】 Where is ( )? It's in ( ). で聞こえた</p>	<p>◎Where is ( )? It's in ( ). を使って簡単な場所の紹介ができる。</p> <p>(行動観察、WS、タブレット)</p> <p>や &lt;思・判・表&gt;①</p> <p>や &lt;態度&gt;①</p>

	<p>場所を素早くタッチする。児童は Where is ( )? を繰り返す。</p> <p>【Controlled practice】 Today's target を練習する。</p> <p style="text-align: center;">Where is ( ). It is in ( ).</p> <p>【Listening practice】 p. 82 Where is ( )? It's ( ). の音声を聞いて線で結ぶ。</p> <p>【Guided practice】 ペアで Where is ( )? It's ( ). を使って場所の紹介に関する information gap game を行う。</p>	
6	<p>◆どんな様子や特徴のものを持っているのかを伝える語句や表現を理解して使う。</p> <p>○Small Talk 話題： Where is Moai? ALT と JET の会話を聞く。</p> <p>【Chant】 on, in, under, by チャンツを体を動かしながら歌う。</p> <p>【Review①】 Where is ( )? It's in ( ). で聞こえた場所を素早くタッチする。児童は Where is ( )? を繰り返す。</p> <p>【Pre-Panorama】 イラストについてやり取りをする。</p> <p>&lt;表現例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ What animals can you see ?</li> <li>・ Where is a bear? Where is a snake? Where is a frog?</li> <li>・ Good. It's under the chair. Yes, it's in the box. Nice, it's in the basket.</li> </ul> <p>※Panorama に出てくる前置詞をジェスチャーとともに使って慣れさせる。</p> <p>Panorama Talk を聞く。</p> <p>【Pair discussion】 覚えている範囲で内容の確認→もう一度聞く。</p> <p>【Spotlight③】 登場人物のまねをして発音練習</p> <p>【Controlled practice】 Today's target を練習する。</p> <p style="text-align: center;">Where is ( ). It is in ( ).</p> <p>【Guided practice】 ペアで Where is ( )? It's ( ). を使って場所の紹介に関する information gap game を行う。</p> <p>【Free practice】 タブレットを使って尋ねられた物の場所を調べて、答える。</p>	<p>◎Where is ( )? It's in ( ). を使って様々な場所の紹介ができる。(行動観察、WS、タブレット)</p> <p>や&lt;思・判・表&gt;①</p> <p>や&lt;態度&gt;②</p> <p>書&lt;技能&gt;①</p>

## 10 本時の展開 (4/6)

### (1) 本時のねらい

○物がどこにあるかを答える語 (in, on, under, by) を理解して、相手とコミュニケーションをとりながら伝える。

### (2) 本時の展開

※本時の展開にある「YKC」とは、大袋地区での小中一貫教育による、読み、書き、コミュ

ニケーションの取り組みである。授業の中で課題や問題を読み取り、考えを書き出し、仲間とコミュニケーション・交流を図るといふ、一連の学習の流れをパッケージ化して実践するものである。「YKC」を小・中の様々な教科や分野で繰り返し取り組むことにより、児童が抵抗なく文章を交えた学習活動に取り組み、結果として思考力・判断力・表現力を向上させることをねらいとしている。

[Y：読み]今日の学習のめあてがわかった。

(問題やねらいをつかみ、見通しを持つことができる。)

[K：書く]自分の考えを書くことができた。

(自分の考えを図や式や言葉で書き表すことができた。)

[C:コミュニケーション]自分の考えを説明することができた。

(自分の考えを伝え、比べたりまとめたりすることができた。)

時間	児童(S)の活動	専科教員 (JET) の活動と ALT の使用英語例 ◎評価 (方法) 【YKC】 の手立て	準備物
1分	<b>【Greetings】</b> ・挨拶をする。	・全体にあいさつをする。	
5分	<u>Introduction : Warm up</u> ○Small Talk 話題 : Where is my pen?  <b>【Chant】</b> on, in, under, by チャンツを体を動かしながら歌う。	<u>Introduction</u> ○Small Talk ・JET の ALT のやりとりを始めに聞き、その後、児童に対して Where is your pencil? などと同じ流れで質問し、Is it in your pencil case? On your desk? By your pencil case? などの前置詞を使った表現を大量に聞かせる。 ・JET と ALT の会話を通して、 ①既習の文型と語彙の復習 ②自然な相槌をデモンストレーションする。 ・児童が日本語や、英単語だけで答えた場合は、正しい英語のセンテンスに直して返す。無理に言い直させたりはしない。 ・歌の on, in, under, by に合わせて手を動かしながらリズムよく歌う。	なし

<p>3分</p>	<p><u>Body①</u></p> <p><b>【Watch and Listen① Panorama】</b></p> <p>・パノラマを聞きながらできそうなところをシャドーイングする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パノラマの中からクイズを出してイラストに興味を持たせる。</li> <li>・内容の確認を簡単にする。</li> <li>・まねできそうなところを、英語を追いかけるようにしてシャドーイングする。</li> </ul> <p>(完璧は求めず、なんとなくぶつぶつやってみる。)</p> <p><b>JET: The cat is on the piano. The rabbit is in the basket. Two coins are under the sofa and one coin is on the sofa.</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の文法・語彙を使い、強調すべき単語に強勢(多く、長く、ゆっくり)を意識して児童の理解を促す。</li> <li>・シャドーイング中はジェスチャーなどを交えながら一緒にシャドーイングをする。</li> </ul>	<p>大 型 TV タブ レッ ト</p>
<p>5分</p>	<p><b>【Controlled practice : Review】</b></p> <p>・Today's target を練習する。 <u>( ) is on/in/by/under the ( )</u>.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・( ) is on/in/by/under the ( ). をスライドを使って練習する。</li> <li>・児童の発言を促しながら復習をする。単なる repeat after me にならない。</li> <li>・スライドが進むにつれて、イラストを見て児童だけで言えるように進める。</li> <li>・本来は前置詞に強勢が置かれることはないが、今回は位置を伝えることが大切なため強勢を置くことが大切なことも伝える。(Today's target=コミ</li> </ul>	<p>スライド</p>

<p>8分</p>	<p><u>Body②</u> 本時の課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>Today's target 相手とコミュニケーションをとりながら部屋の様子を説明しよう。(on, in, under, by)</p> </div> <p>【 Guided practice 】 Information gap game: This is my room.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•JET と ALT のデモンストレーションを見て、ターゲット表現の使い方と Communication strategy を知る。</li> <li>•相手の様子を見る</li> <li>•繰り返す、聞き返す、確認する、強勢をつける、相手の様子を観察する。</li> </ul>	<p>コミュニケーションをとりながら)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•日本語と語順が異なるため、何度もイラストを見せながら動作と発話を繰り返すことで少しずつ定着させる。</li> </ul> <p>【Y】めあてを知り、本時は活動への意欲を持ったり、活動の方向性をつかんだりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•JET と ALT でゲームのデモンストレーションから <b>コミュニケーションをとりながら</b> のヒントを探す。</li> </ul> <p>JET: A dog is on the sofa. ALT: <u>Okay on the sofa. And?</u> 確認 (繰り返し) ・促し</p> <p>JET: A book is under the table. ALT: <u>under?</u> 確認</p> <p>JET: Yes, under. <u>承認</u> ALT: <u>Okay under. and?</u> 確認 (繰り返し) ・促し</p> <p>JET: A hamburger is in the box. ALT: <u>Brown? Gray?</u> 聞き返し</p> <p>JET: Oh, gray. ALT: Okay, <u>gray.</u> 確認 Thank you.</p> <p>正しい文型、前置詞、形容詞の配置＝○複雑性</p> <p>☆<u>強調すべき単語に強勢を置いたり、聞き返し、繰り返し、確認、などの表現を使ったりする など communication strategy に関する相槌も紹介する。(効果的な交流)</u></p>	<p>WS</p>
-----------	---	--	-----------

<p>9分</p>	<p><b>【 Guided practice 】 Listening and practice</b>  <b>This is my room.</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ JET と ALT の部屋の説明を聞いて communication strategy を使いながら絵に表す。</li> <li>・ 繰り返す、聞き返す、確認する、強勢をつける。</li> </ul> </p>	<p><b>【C】</b>見つけた効果的な交流のヒント（強勢・聞き返し、繰り返す、確認、相手の様子の観察）を共有する。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意図的に前置詞を弱く言ったり、色を言い忘れたりするなどをして、児童の communication strategy を促す。</li> </ul> <p>Ex) on? In? Brown? Gray? Okay, and?</p> <p>☆Communication strategy の紹介をしながら机間指導。</p> </p>	<p>WS タブレット</p>
<p>10分</p>	<p><b>【Free practice】</b>  <b>Information gap game: This is my room</b>に取り組む。      ※必要に応じて強勢を強めたり、繰り返したり、確認したりする。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全ペア同時に始めることで language anxiety の軽減を図る。</li> </ul> </p>	<p><b>【C】</b>児童・教師間で効果的な交流のヒント（強勢・聞き返し、繰り返す、確認、相手の様子の観察）を使って交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 示されたアイテムを自由にイラストの中に配置し、オリジナルのお部屋を作る。</li> </ul> <p>◎自分でデザインした部屋の様子を on, in , under, by を使って分かりやすく説明できている。（行動観察・ワークシート、タブレット）</p> <p><input type="checkbox"/>聞&lt;思・判・表&gt;②  <input type="checkbox"/>や&lt;思・判・表&gt;①  <input type="checkbox"/>や&lt;態度&gt;②</p> <p>☆正確性・流暢性・複雑性</p> <p>◎相手とコミュニケーションをとりながら伝えているか。（行動観察、タブレット）</p> <p><b>【C】</b>児童間で効果的な交流のヒント（強勢・聞き返し、繰</p>	<p>WS タブレット</p>

		<p>り返し、確認、相手の様子 の観察) を使って交流す る。</p>	
4分	<p><u>Conclusion</u></p> <p><b>【Feedback】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参考になる表現をしていた児童を紹介・ 称賛する。</li> </ul> <p><u>Reflection</u></p> <p><b>【Worksheet】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りを書く</li> </ul> <p><b>【Greetings】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ( ) is on/in/under/by( ). を使って適切な文が作れてい たすべての児童を称賛する。 以前の自分と比べて少しでも 上達している事実を特に称賛 する。</li> <li>・次回は地図を使ったアクティ ビティをすることを伝える。</li> <li>・有効だった <b>Communication strategy</b> も紹介する。正解が 決まっているわけではなく、 色々な方法があつてよいこと を伝える。</li> <li>・振り返りのワークシートを集 め、児童の達成度や気持ちを 把握し、次時に生かす。</li> <li><b>【K】</b>めあてに対して自分の活動 を振り返り、記入できる ようにする。</li> </ul>	WS